

第4回 住民説明会 質疑応答の要旨

（質問・意見）施設の使用電力は、まず使う量を少なくする考えが大事、天窗からの自然採光を利用は良い。必要な電力量はどの位か。建物の管理スペースは広くないか。ヒートポンプが利用する熱は地下熱も利用するのか。床の素材に蓄熱できるような密度の高い石を使うのはどうか。

（回答）使用電力量は40KW程度と考えている。床材の蓄熱は設計に反映することが難しいのと展示を主とする建物のため下部の堅い素材はあまり適さない。また石材を使用した場合、十分に蓄熱できないと冷えたままの床材が露出することになってしまう。（設計会社）

（回答）ヒートポンプの利用熱は空気のみ。（北海道）

（回答）自然光の取り入れについては展示物への影響も考慮して設計している。トイレについては今回の建物の利用者だけではなく白鳥公園利用者も見込んでいる。管理ヤードについては類似施設の宮島沼でも半分近くが管理ヤードとしている。床材については類似施設で採用例がないので難しいが検討したい。（環境省）

（質問・意見）展示を見てゆっくり座って観察できるような場所を設けて欲しい。椅子を増やし、高齢の方の利用も多いので、背もたれもあった方がよい。他の施設では望遠鏡はテーブルもセットになっている印象があるが、今回の施設はどうか。

（回答）この施設のアピールポイントは、館内から湊沸湖とアヤメ群落の展望であり、くつろいで滞在できるように工夫したい。椅子の増設と背もたれの件は検討する。椅子に座りながらの観察は出来るようになるが、そこで物書きをすることまでは出来ない状態になっている。（環境省）

（質問・意見）展示は楽しめるものになっていると思うが、鳥インフルエンザに関する情報発信はどのようにするのか。死んだハクチョウに触らないで、というだけでは不十分。

（回答）高病原性鳥インフルエンザというのは、鶏などの家禽にとって高病原性であり、野鳥にとっては普通の病気かもしれない。今回、浜中で発生し、様々な知見を得ることができた。活動報告用展示コーナーを大きく取っているのだから、そのスペースを使って最新の情報を出していきたい。

（質問・意見）この地域に特有の問題として、周辺地域において、雪解け時期に秋まきの麦畑でのハクチョウによる農業被害がある。こういった問題への相談窓口なども用意されていると良い。

（回答）今後の運営体制の構築の中で検討させていただきたい。鶴居村のタンチョウについては環境省で農業被害対策のマニュアルを作成し、農家に実践していただいている。そのような取組もできるのではないかと考えている。

(質問・意見) 柱と柱の間など車いすが通る余裕はあるか？また、自動ドアの設置と間口の広さは？

(回答) 車いすが通る幅は十分ある。自動ドアの間口は1.5mほど。(設計会社)

(質問・意見) 展示と建物の費用配分は？また、基本設計と実施設計の支出額は？

(回答) 概算の想定で展示5～6千万程度、建物・設備2億円程度、外構3～4千万程度を想定している。(設計会社)

(回答) 基本設計は5百万程度、実施設計は12百万程度(北海道)

(質問・意見) 展望カメラの操作スペースがあるが、どこに設置するのか。カメラは費用がかさむので予算を抑えてその他の展示の充実をお願いしたい。カメラをつけるのであればインターネット上でも見られるようにしたらよいと思う。

(回答) 現在機械を選定しているところ。(設計会社)

(回答) 2階の湖側にリモコン操作可能なカメラの設置を考えているが、高性能のものは付けられないと考えている。(環境省)

(質問・意見) 地元の濤沸湖資料館の標本を活用して欲しいという話が出ているが、周りの環境を生かした剥製は博物標本であって、今の生態学を教えるにはあまり必要はないと思う。資料展示室は中を入れ替えながら展示することを考えているのか。

(回答) 資料展示室は地域の人たちと濤沸湖のつながり、付き合いの歴史を示すものをお借りして展示することを考えており、この中で標本の採用も考えている。どういうものを選ぶかということはしっかり考えたい。(環境省)

(質問・意見) 寄贈された場合はどこに収納するのか。

(回答) 環境省で寄贈を受けるのではなく、あくまでお借りして展示する形式を取りたいが、詳細の検討はこれからである。(環境省)

(質問・意見) 展示テーマの「環境と生命のつながり」は新しいテーマであり評価できるが同時に難しい展示や運営が求められると思う。協議会方式で進めていくことになると思うが、協議会で展示についても議論する機会をつくり、人材を配置してテーマの実現に努めて欲しい。

(回答) 展示テーマについてはラムサール条約におけるワイズユースだけではなく、地域の人たちが永年に渡って、濤沸湖付近に暮らしてきた、その営みも取り入れた資料展示としたいという気持ちがあった。(環境省)

(質問・意見) 地域がハクチョウなどの自然環境を保護してきたという言い方はそのまま受け取れない。むしろ人間が自然環境に与えてきたリスク、ダメージを反省する視点も重要ではないか。

(質問・意見) 湖の周辺の環境変化が大きい。湖の変化も含めて自分たちで考えていかないといけない。その議論の場がほしい。

(回答) 湊沸湖周辺の環境変化について過去の開発はその時代時代で正しいと判断されて進められてきたこと。過去の犯人捜しをするような展示ではなく、今回の展示は昔と今の違いを表す環境キーワードを伝え、着た人に「なぜ？」を考えてもらう契機となうような展示にしたいと考えている。(環境省)

(質問・意見) 木道について景観を考えるとデッキを湖畔側に出した方がよいのではないかと。排雪の問題を考えると道道側には木道はない方がよいと思う。道道側は建物との連携も良くない。木道を設置する最大の目的は？

(回答) 木道の目的は湿地の植物観察と写真撮影のために柵の中へ入られる方の利用動線の制限である。(環境省)

(質問・意見) オープンデッキと木道のつながりは？

(回答) 同じレベルでつながる。(環境省)

(質問・意見) 基本的に屋根の雪は明渠の方に落ちるとのことか？

(回答) はい(環境省)

(質問・意見) アヤメの観察と山も含めた風景の撮影については、道道側が条件としてよい。

(質問・意見) 建物の資料展示室あたりから木道をB案まで延ばしてはどうか。(回答) 予算的に厳しくて難しい(設計会社)

(確認) 道道側については、中に入らないように制札を設置する程度で、A案(湖畔側)を基本として考えたい。予算と植生調査の結果を踏まえて最終的にルートを考えさせていただきたい(環境省)。

(質問・意見) アヤメの移植という話があるが、自然は自然のまま残すということを考えるべきであり、なぜ移植という発想になるのか？

(回答) 元々、この場所は観光牧場があり、馬を放していることによって、アヤメ以外の草を食べ、アヤメだけがきれいに残っていた。牧場をやめたあとに、アヤメが衰退してきたため、アヤメを残そうということで、またポニーを放して地域の方が維持してきた。今回の施設の整備については、様々な候補地を検討してきた。アヤメの湿地は原生的な湿地ではなく、人手が入った二次的な環境の場所であるため、アヤメの移植を前提に候補地として選ばれた。しかし、そういった環境であったとしても希

少植物の生育が確認されたため、環境省が実施する事業としては影響を極力少なくしたいということで、施設の位置を既存駐車場に寄せて改変面積を減らす配置について相談させて頂き、了解してもらったところ（環境省）。

（質問・意見）アヤメはどれぐらい貴重なのか？

（回答）アヤメは希少種というわけではなく、普通にある種。ただ、地域で増やす努力をしてきたので、その努力を無にしたくないという思いから移植を考えた（環境省）。

（質問・意見）既存観察舎を残して、別の場所に建てようとするのはなぜか？もっと近づけて建てればさらにアヤメは傷つかずに済むのではないか？古い観察舎を残しておく理由は何か？

（回答）現段階でも約10mとだいぶ接近している状況（北海道）。

（質問・意見）前回の説明会で、場所について十分に議論した。網走市は2億円もかけて今の観察舎を造っている。新しくできる建物と古い観察舎がどのように連携していくかという議論をしているわけなので、ちょっと悪いが今の話しはこの場ではやめてほしい。いろんな人がいろんな立場で考えて、苦悩して知恵を出し合って前回決めたことだと理解してほしい。

（回答）これまで何度か議論を積み重ねてきているが、どういう流れでこのようになってきたかをまとめて、地域の皆さんと共有できるものを配付したいと思っている。施設の配置については、湧湖近辺、北浜近辺、今回の場所というように候補を絞り込んできた。市の観察舎を壊せないのかという議論もあったが、まだそれほど古くもなく、展望利用をしている。また、環境省では売店ができないことから、環境省と網走市で役割分担をしながら連携をしてやっていこうとなった経緯がある。今日は皆さんがご存じの前提で説明会を進めているため、新しく参加された方には分かりにくくて申し訳ない（環境省）。

（質問・意見）アヤメは、ある程度手を入れないと守っていけない。

（質問・意見）湧湖の湖畔のアヤメはどんどん減っている。国道の周辺の湖岸にもかつてはあったがどんどん減っている。群生しているのがこの白鳥公園の箇所だけになってしまった。なので、この際せつかく移植するので、その移植する技術も皆が身につけた方が自然を守るためにはよいのではないかと思う。

（質問・意見）木道は費用も相当かかるということだが、どうしても木道は必要か？

（回答）直接湿地に入ると、足もとの状態が悪いため湿地を荒らしてしまう恐れがあり、木道でルートを限定して見て頂く必要があると考えている。木道については初夏の植生調査を踏まえて最終案を決定したいと思っているので、今日頂いた意見を踏まえ、また次回ご提示したい（環境省）。

(確認) 施設名称については如何か? 「とうふつ湖水鳥・湿地センター」という案では如何か?

(質問・意見) 展示のテーマに掲げている「環境と生命」を入れられないか? 字はどれでもよいが「濤沸湖環境と生命の学習センター」というのはどうか? 今回は「水鳥」や「湿地」にこだわってほしくない。

(回答) 環境省としては、「水鳥」と「湿地」にこだわってとってきた予算であり、これは基本としたい(環境省)。

(質問・意見) 「濤沸湖」にフリガナをふってもらえればよいかと思う。難しい漢字の濤沸湖にはこだわりがある。

(回答) 了解。問題があるのは環境省内部の方なので、公用語でこの文字を使えないので、そこは内部で説得したいと思う。水鳥観察館とすると、鳥がいる季節しかお客さんがこないのかということもあり、鳥がいなくても湿地のことを学習できるということを考慮すると「湿地」という言葉も入れたい。(環境省)

(質問) 「センター」は「館」でもいいのかもしれないが。愛称はよろしいか?(環境省)

(回答) 会場から「愛称はいらない」というリアクション。

(質問・意見) 「水鳥」を「野鳥」に置き換えたらどうか? 水鳥に限らないのでは? 「野鳥・湿地センター」はどうか?

(質問) 野鳥と水鳥の割合はどの程度か(環境省)

(回答) 種類是水鳥の方が多いと思うが、個人的には「水鳥・湿地センター」の方がゴロがよいのではないかと思う。

(質問) それでは「^{とうふつこ}濤沸湖水鳥・湿地センター」で進めさせて頂く(環境省)。

(質問・意見) 協議会はどのような構成メンバーにするのか? メンバーに学識経験者や環境に関心のある団体や個人も入れてもらいたい。

(回答) 環境省は、通常こうした施設を整備した際には、その施設のための協議会を設ける。その協議会をどのような構成メンバーにするのかは詰め切れていない。協議会に対して、有識者の視点で意見を言える機会を設けることも検討できると思う。また次回にお示ししたい(環境省)。

(質問・意見) 建築主体はどこか?

(回答) 環境省。北海道に施行委任して事業を進めている(環境省)。

(質問・意見) 北海道庁が主体というのは、地元の業者が参加できるということか?

(回答) 北海道が発注するので、道内の企業、基本的には地元が優先されると思う(北海道)。

(質問・意見) 年間の維持管理費が一千万円と聞いたが、そこで働くスタッフの給料も含めてということか？

(回答) 施設の管理運営は、管理は環境省、運営やサービスは網走市にお願いしている(環境省)。

(質問・意見) 運営にはどの程度予算がかかるのか？

(回答) これから検討していくところ(網走市)。

(質問・意見) 沈砂地は結局湖に流れていくということか？

(回答) はい(環境省)。

(質問・意見) 今回初めて参加したのだが、4回目ということで驚いた。説明会開催の周知が徹底されていないのではないかとこのような施設ができることについて、もっと広報をしてほしい。

(回答) 前回、今回と市の広報等で案内させて頂いたが、足りなかったという印象。過去の経緯もまとめてお知らせできるよう工夫したいと思う(環境省)。

(質問・意見) 年間の利用者数はどの程度を想定しているのか？

(回答) 施設の規模を算定する段階で試算しているが、本日は、資料を持ってきていないので即答できない。(環境省)

(質問・意見) 整備の前提になる基本的な数字が即答できないというのは不安に感じる。

(回答) 基本構想当時では、年間約5万5千人と見込んでいた(網走市)。

(質問・意見) 鳥インフルエンザが発生した際のマニュアルも必要ではないか。

(回答) 類似の各施設では、それぞれマニュアルを用意している。この施設についても作成していくことになると思う。

(質問・意見) 過去の資料もホームページで閲覧できるようにしてほしい。

(回答) 早急に掲載したいと思う(環境省)。

(質問・意見) 施設の運営に係る費用を網走市が出すということなので、どういう運営をしていくのか、市民の声も反映できる場を設けてほしい。

(回答) 検討する(網走市)。